

玉 じゅり

神社だより

第26号

編集・発行

長崎県神社庁 教化部

平成30年度版

長崎市上西山町19-3

TEL.095-827-5689

<http://nagasaki-jinjacho.or.jp/>

皆様は普段どちらの神社へお参りなさいますか？

神棚のお祀りの仕方、「天照皇大神宮・氏神社・崇敬神社」等と書かれているのをご覧になられたことがある方もいらっしゃるでしょう。

天照皇大神宮は伊勢の神宮、崇敬神社は氏神社以外に崇敬している神社。では、その氏神社とは何でしょう。

氏神様とも言われる、自らが居住する地域の守り神・鎮守の神様を、同じ地域に住む人々が共同でお祀りしているのが氏神社です。そしてその地域に住む人々を氏子と呼びます。

氏神は、もともとは文字通り氏姓を同じくする氏族の間で自らの祖神（親神）や氏族に縁の深い神様を祀ったことに由来し、氏族が共同の神を崇めその団結を図り、神と人、人と人とを強く結びつけ

ていました。

時代がくだり、地域を主体とした社会へと移行し、現代ではその地域に住む人々を氏子とする氏神社が各地域毎にお祀りされてきて、心の拠り所となっています。

結婚し、その地へ住むことを、氏神様へ報告し、子供を授かると安産祈願、産まれたら初宮参りで無事出産したことを報告し、七五三で成長を見ていただき、大人になっても厄

氏神様へのお参り

なつても厄年や歳祝いなどで御礼参りをして神のご加護に感謝し、またその子や孫が同じように成長していく様も、氏神様に見守られながら日々を暮していくのです。

自分の住んでいる地域の氏神様がどこか分からない場合は、近くの神社に尋ねてみて下さい。

これを機に、氏神社へお参りし、境内を散策してみたいかがでしょうか。





日本の神話

あま いわやど やまた おろち
天の岩屋戸開き、八俣の大蛇退治、
いなば
因幡の白うさぎ。これらの神話の出現
であり、日本最古の歴史書である『古
事記』から『天の岩屋戸開き』を紹介する。

天の岩戸と天の安河原

あまてすのおみかみ
天照大御神の弟神、須佐之男命の再三にわた
る悪業に怒った天照大御神は、ついに天の岩戸
を閉じて隠れてしまいました。さあ、日の神、
天照大御神が隠れてしまったから大変です。高
天原はあつという間にまっ暗やみになり、神々
がザワザワと騒ぎ始め、悪いことが次から次へ
と起こり始めました。困った神さまたちは、天
の安河原に集まり相談をし、岩屋から引き出
す作戦をたてました。

あまをきり
「まず、夜が明けたと思わせるために、長鳴鳥
(ニワトリ)を集めていっせいに鳴かせましょう。
それから、天宇受賣命は岩屋の前でおもしろお
かしく踊って、ほかの神々はそれをはやし立て
るのです。外の様子をふしぎに思った天照大神
が、岩屋の戸を少しでも開けたときに、天手力
男神は天照大御神を外に引っぱり出すのです」
さつそく、長鳴鳥が集められ、天宇受賣命は
踊るしたくをととのえました。力の神様・天手
力男神はこっそりと岩屋の戸のわきに隠れました。
いよいよ天照大御神を天の岩屋から呼び戻す作
戦が始まりました。

天宇受賣命と天手力男神

あめのうすめのみこと あめのたちからおのかみ
まず、天宇受賣命がしずしずとあらわれ、岩
屋の前に置かれた伏せた桶の上で、ニワトリの
声に合わせて踊りはじめました。腰をフリフリ
ゆらゆら、何かにとりつかれたように踊ったも
のだから、着物はずれるわ、お乳は見えるわ、
へそも見えるわで、見ていた神様たちは大笑い。
外の騒ぎをふしぎに思った天照大御神は、岩屋
の戸を少しだけ開いて、外の様子をうかがいま
した。すかさず、天宇受賣命が天照大御神に
「あなたさまよりも、もっととりっぱな神さまが
ここにおられます」

とやうと、天照大御神の前にさつと鏡を差し出
しました。そこには、キラキラと光り輝く美し
い神様が映っていたものだから、天照大御神は
いよいよふしぎに思い、その神様をもっとよく
見ようと身をのりだして鏡をのぞきこんだその
時です。

「さあ！ 今だ！」

岩屋の戸のわきに隠れていた天手力男神が天照
大御神の手を引っ張り、岩屋から連れ出しまし
た。あつという間に、高天原にはふたたび日の
光があふれ、山も川もふたたび輝き始めました。

○国指定重要無形民俗文化財
吉岐神楽

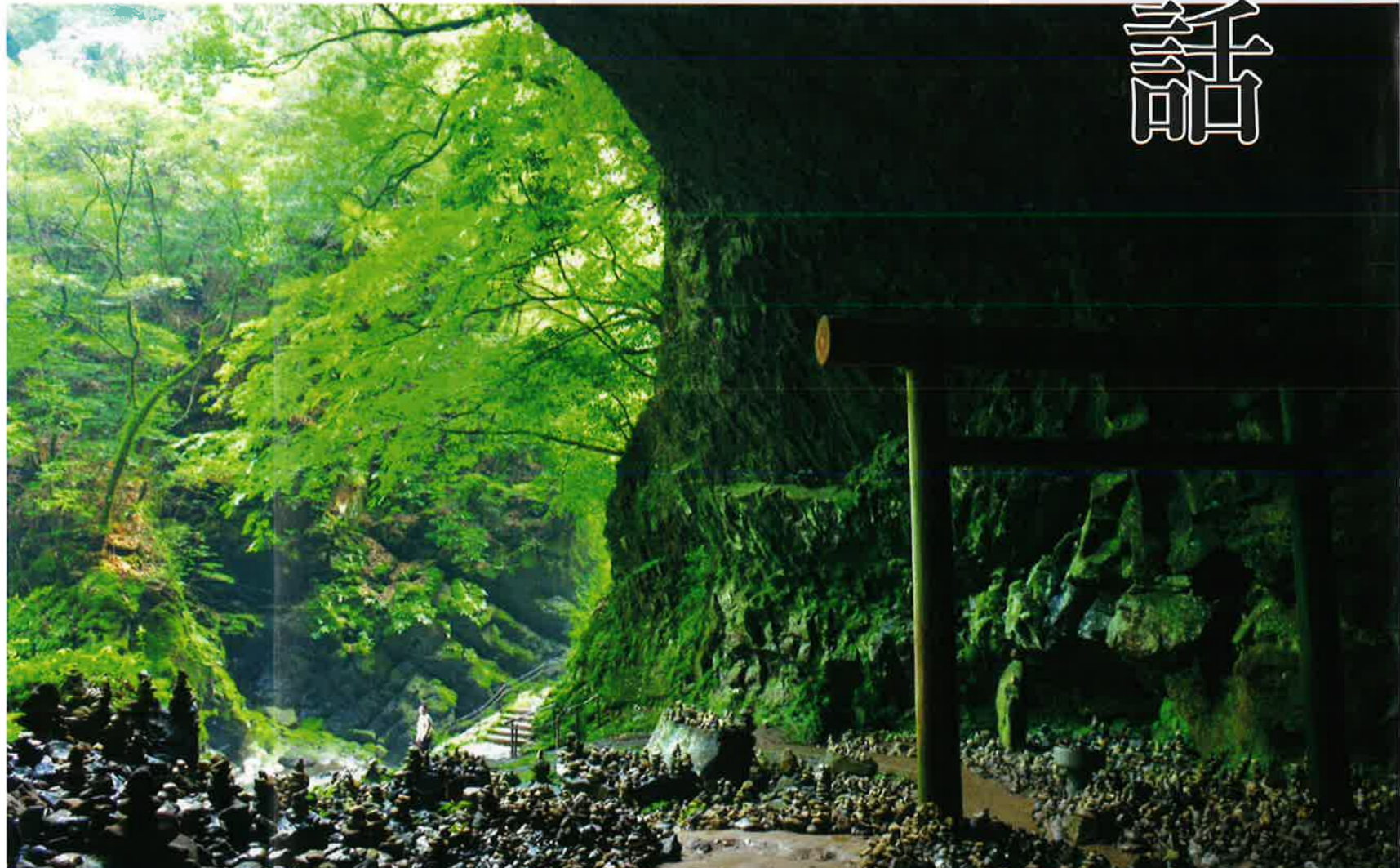
吉岐神楽は古い伝統と歴史
をもつ神事芸能で、他の地方の
神楽組とか神楽師等の奏する
神楽とは違って、神楽舞も音楽
も神職ばかりで奏される、きわめ
て神聖視され信仰されている重
大な文化財であり、昭和62年1
月、国の重要無形民俗文化財
の指定を受けました。

神楽の起源は南北朝(1336
・1392年)の頃だといわれ、吉
岐市芦辺町箱崎・八幡神社の
社家に伝わる古文書の中に、永
享7年(1435年)11月に神楽舞
人数のことを記したものがあり、
室町時代の初期にはすでに行
なわれていたことを知ることが
できます。

この当時の神楽は現在行な
われているような整ったものでは
なく、そのやりかたも両部習合のや
りかたであったといわれています。

その後、寛文初年に唯一神道
の式に改められ、以来年次を経
るにしたがって神楽歌も庶民に
理解できるように意を用い、神楽
舞の手振りなども逐次改訂修補
を加えられ、現行の神楽ができて
いったと伝えられています。

吉岐神楽はその規模により、
幣神楽・小神楽・大神楽・大々神
楽の四つに分けられます。



「天安河原」宮崎県西臼杵郡高千穂町岩戸

伊勢神宮新穀感謝祭

伊勢神宮では毎年12月に、新穀の豊かな稔りを感じする「新穀感謝祭」が行われており、全国津々浦々から多くの人々が参列されます。

本県からも一人でも多く参列できるように、この祭典に併せ「伊勢神宮参宮団」を実施しています。

新穀感謝祭ならではの特典御接遇もありますので、是非この機会に御参拝下さい。



内宮の宇治橋前

皇居勤労奉仕団

長崎県神社庁主催の皇居勤労奉仕団は、平成29年度に20回目が開催されました。これまでに約620名もの方々に参加頂き、畏くも天皇皇后両陛下の御会釈を賜りました。

毎年9月中旬に5泊6日の日程で実施しており、内4日間は皇居及び赤坂御所での奉仕となります。皇居、赤坂御所への参内が許される貴重な機会ですので、皇室敬慕の念高き皆様のご参加をお待ち申し上げております。



第20回皇居勤労奉仕団(38名)

参拝のいろは その①

皆様は年に何回神社にお参りになりますか？年始のお参りだけという方から、毎月一日と十五日は必ず、またそれ以上という方まで様々だと思います。年に何回お参りしなければならぬという決まりはありませんが、お参りの仕方には正式な作法があります。今回はその作法の中から、参道の進み方から境内に入るまでをご説明したいと思います。

まず、参道の進み方ですが、神社には「正中」があります。詳しくは前号(二十五号)をご覧いただきたいと思いますが、「正中」とは神様の通り道のことです。「正中」は、神社の一番奥に鎮座されている「御神体」から、真つ直ぐに続いています。神様は、日頃この「正中」をお通りになります。ですから皆さんがお参りされる際には、この参道の真ん中にある「正中」を避けて通って下さい。参道を抜け最後の鳥居である一の鳥居に着きました。軽くお辞儀をして境内に入ります。この鳥居は、俗と聖を別ける目印です。可能な限り多くの鳥居をくぐり、聖なる場所に進んでいるという感覚を味わって下さい。

境内に入ったらまず手水舎で「手水」を行います。これは、「穢れ」を落とし清らかな心でお参りするためです。まず右手で柄杓を持ち左手を洗い、持ち替えて右手を洗います。また持ち替えて左手に水をためて口をすすぎます。残った水で再度左手を洗います。最後に柄杓を立てて残った水で柄の部分の洗います。相撲の取組でも出番の力士が最初に口をすすぎますが、神聖な土俵を穢さないように身体を清めているのです。また、日本最古の歴史書である「古事記」「日本書紀」には、死者の世界である黄泉の国に足を踏み入れた伊弉那岐命が、地上界に戻られた際、筑紫の日向の橘の小戸の阿波岐原の水辺で身を洗い清められたとの記述があります。この様に日本人は古来より水により祓いや清めを行っていたのです。

以上の作法を行わなければお参りしてはいけないということはありませんが、この「手水」を行うことで心も身体も清められ、より一層清々しい心もちでお参りすることが出来ることと思います。

次回は、ご社殿に着いてからの作法を御説明します。